



# EAPEA ニュースレター

2011年1月15日  
創刊号

発行元: NPO 法人東アジア政経アカデミー

発行元連絡先: 〒173-0004 東京都板橋区板橋 2-64-5 グレイスビル 402号 電話&FAX: 03-5944-1779

URL: <http://www1.ocn.ne.jp/~eapea/> e-mail: [eapea@diary.ocn.ne.jp](mailto:eapea@diary.ocn.ne.jp)

## 創刊号へのご挨拶

EAPEA 代表 永野慎一郎

ニュースレター第一号をお届けします。

東アジア政経アカデミー(EAPEA)は設立から2年目に入ります。初年度は設立のための準備と活動のインフラ整備に努めて参りました。皆様からの厚いご支援をいただき、活動の範囲も徐々に広がってきています。事務所がある東京都板橋区と韓国全羅南道木浦市との交流を推進し、それを他の地域に広めていくという当初の計画を確実に実行に移しております。その一環として、2月10日に田内千鶴子の映画「愛の黙示録」の上映会と共に木浦市観光紹介を併せて企画しました。また、木浦訪問を企画致しております。

今回の行事のために木浦市から丁鍾得市長をはじめ、10余名が来日し、板橋区長等と今後の交流について意見交換し、板橋区内の産業・文化・福祉施設などを視察することになっておりましたが、あいにく現在韓国で口蹄疫および鳥インフルエンザが流行し、それへの対応で2月訪日は中止となりました。時期を改めて訪問を実施したいと考えております。

東アジア政経アカデミーは、東アジア地域の平和と安定並びに共生共栄に寄与することが目的です。我々の活動がその一助になれば幸いです。

## 東アジア政経アカデミーの目的及び事業内容

### 目的:

東アジア地域(韓国・中国・台湾)の研究機関、地方自治体、商工団体、社会福祉団体や一般市民団体等を対象として、共同研究、セミナーおよびフォーラムの開催、講演会及び公開講座の実施、産業構造の実態調査、各種研修団の受入や派遣等の事業を行い、各種レベルの交流と相互理解を通じ、東アジア地域の平和と安定並びに共生共栄に寄与することである。

### 事業内容:

- セミナー、フォーラム、講演会、公開講座等の開催により東アジア地域の文化の普及に努めるとともに、学術、文化の振興を図る。
- 東アジア地域の地方レベルの各種団体との交流を図る
- 東アジア地域の産・学・公との情報交換とネットワーク構築
- 東アジア地域の経済活動の活性化のための調査・研究
- 東アジア地域の投資環境の調査および紹介
- 技能労働者の雇用機会拡充
- 日本語—韓国語、日本語—中国語の翻訳及び通訳
- 出版事業

### この号の内容

#### 1 創刊号へのご挨拶

東アジア政経アカデミーの  
目的及び事業内容

#### 2 研究活動報告①

- 朝鮮半島非武装地帯平和  
利用ワークショップ
- 日韓海底トンネル国際セミ  
ナー

会員募集告知

#### 3 研究活動報告②

- 09年韓日障害福祉国際  
シンポジウム(松浦 勉)
- 東アジア経営学会国際連  
合第10回大会参加記  
(貫 隆夫)

日韓政策フォーラム

役員紹介

#### 4 お知らせ

- いたばし政策塾「公開講  
座」ご案内
- 日韓合作映画「愛の黙示  
録」上映会
- 木浦訪問企画

編集後記

## 研究活動報告①

### 朝鮮半島非武装地帯平和利用ワークショップ

2010年12月27日、信濃町の大東文化大学法科大学院会議室において、朝鮮半島非武装地帯(DMZ)の平和利用に関する日韓専門家のワークショップが行われた。

朝鮮半島非武装地帯は、1953年7月23日に締結された朝鮮戦争休戦協定によって、休戦ラインに沿って南北2キロずつに設定された。DMZは幅4キロの南北緩衝地帯249.4キロの長さである。方々に地雷が敷設されていることから、人間が寄り付かないため、渡り鳥が翼を休める野鳥の楽園と化した。

この地域には多種の世界でも珍しい渡り鳥が生息

し、移動する地域であり、また珍しい植物の生息地でもある。なべ鶴が冬季になるとシベリアから飛来し、鹿児島県出水市等で過ごしてから、春が来るとシベリアに帰るが、その途中でこのDMZは渡り鳥にとって休息の憩いの場となっている。

コリアDMZ協議会は、2010年8月にDMZおよび周辺の平和を確保し、天然の生態系を歴史の遺産として保全するための支援活動のために設立された。永野慎一郎東アジア政経アカデミー代表もコリアDMZ平和利用に関する趣旨に賛同し、同協議会国際諮問委員として参加している。

### 日韓海底トンネル国際セミナー

2010年10月15日、釜山発展研究院大会議室において日韓トンネル構想に関する国際セミナーが開催された。釜山発展研究院、韓日トンネル研究会、大宇建設技術研究院、韓国地質資源研究院、韓国交通研究院、東亜地質等の専門家、日本側から12名の合計100余名が参加して、これまでの日韓両国のトンネル関連研究および議論を整理し、今後の政策方向について議論した。

李彦五釜山発展研究院長の歓迎の挨拶から始まり、野澤太三日韓トンネル研究会長および徐義澤韓日トンネル研究会長の祝辞の後、永野慎一郎大東文化大学名誉教授の基調講演があった。永野名誉教授は基調講演の中で、日本と韓国は近年になって相互交流と理解が深まり「近くて近い国」の関係になりつつあると指摘し、日韓トンネル建設については、両国首脳間

でも建設の必要性について言及されていると紹介し、日韓海底トンネル建設は東アジアの平和と安定並びに共生共栄への道であり、東アジア共同体に向けての日韓両国の経済交流の架橋となるとし、日韓トンネルが建設されれば、人の往来が活性化し、相互交流が深まり、文化及び経済交流の深化につながると力説した。

さらに、21世紀の新しい日韓関係構築のために両国政府が日韓トンネルを共同事業として取り組む姿勢を明確にし、今までの調査・研究内容を基本に各分野の専門家による共同委員会を設置することが望ましいと提案した。また技術的側面、経済性等、様々な要素を総合的に判断し、個人・団体・地域の利害関係を越えた多くの人々が納得できる案でなければならぬと付け加えた。

### アカデミー会員募集!

皆様のご支援とご協力のお陰をもちまして、当アカデミーは、2010年9月27日、特定非営利活動法人(NPO法人)として認証されました。東アジア地域(韓国・中国・台湾等)の産・学・公の機関との共同研究、セミナー及びフォーラム等を開催し、講演会及び公開講座なども実施しております。また、東アジア地域の産業構造の実態調査、各種研修団の受け入れや派遣などの業務を行い、相互の交流を通じて、理解を深めることで地域の平和と安定並びに共生共栄の道が開かれるものと考えております。

以上の趣旨に賛同し、参加されたい方には入会を

是非お願い致します。当アカデミーの会員には、正会員(個人・団体)と賛助会員(個人・団体)の二種類があります。正会員は活動に参加するメンバーであり、賛助会員は財政的支援及び当アカデミーの運営に関してアドバイスをするメンバーであります。会員には、講演会及びセミナー等、当アカデミー主催の行事への参加、視察団及び調査団への参加、東アジア地域についての研究成果や最新情報などを提供致します。会員入会ご希望の方は、4ページ目の連絡先にお問い合わせ下さい。

入会金: 正会員・賛助会員 5,000円

年会費: 正会員(個人・団体) 5,000円、賛助会員(個人・団体) 一口20,000円(一口以上)

## 研究活動報告②

### 09年韓日障害福祉国際シンポジウム

板橋区福祉部長 松浦 勉

2009年7月ソウルで開催された同シンポジウムに、私は縁あって日本の自治体代表として出席し、板橋区の障害福祉の現状や課題を発表した。公務として自身初の韓国訪問は、足元の障害福祉制度や施策を見つめ直すよい機会になるとともに、韓国国会議員、大学教授、障害者団体役員をはじめ多くの内外関係者と知り合えた思い出深い機会となった。

4日間の滞在中、2日間のシンポジウム(参加者約500人)の合間に、歓迎晩餐会や昼食会、施設訪

問、お別れパーティなどが開催され、100人近い方と交流した。歴史的観の相違や経済・スポーツの競合関係などから抱いていた先入観も、握手し議論し合い杯を交わすうちに払拭され、友人同士の笑顔を交わすまでになり、帰国後の国際交流に関わる際の自信にもなった。

この旅は、異文化との接触・交流は人を幅広く寛容にさせるものだと改めて感じさせ、私が東アジア政経アカデミーに参加する契機ともなったのである。

### 東アジア経営学会国際連合第10回大会参加記

貫 隆夫

2010年10月21～23日の期間、ソウルで東アジア経営学会国際連合(IFEAMA)が開催されました(組織委員長は柳太洙漢陽大学教授)。この大会は2年に1回、東アジアの大学が持ち回りで主催校となり、開催されます。前回はモスクワで(ロシアが構成国になっているのはシベリ

アが東アジアに属するからです)開催されました。最終日には休戦ラインに近い坡州(Paju)にあるLGInnotekの工場を見学しました。ここはLEDチップの分野で世界最大・最先端の工場であると、対応してくれた社員が誇らしく説明していたのが印象に残りました。

### 日韓政策フォーラム

韓国統一研究院主催第3回日韓政策フォーラムが、2010年9月29日に大東文化大学法科大学院(信濃町校舎)会議室において開催された。同フォーラムは、2008年の李明博政権誕生後、日韓の専門家による政策フォーラムとして始まった。大東文化大学東北アジア平和発展フォーラム(代表永野慎一郎)主管。政界、学界、言論界の朝鮮半島専門家が集まって討論するフォーラムである。

#### 第1回

「韓国新政府の北朝鮮政策と日韓協力」

#### 第2回

「米国オバマ政権の対北朝鮮政策と日韓戦略的提携」

#### 第3回

「北朝鮮の政治・経済の現状と日韓政策協力」

特定非営利活動法人  
東アジア政経アカデミー役員

代表 永野慎一郎(大東文化大学名誉教授、政治学博士)

副代表 稲葉眞一(東アジア友好ネットワーク理事長、元東京都議会議員)

副代表 貫 隆夫(武蔵大学名誉教授、前大東文化大学教授)

理事 大杉由香(大東文化大学准教授、経済学博士)

理事 小田川興(早稲田大学客員教授、元朝日新聞ソウル支局長)

理事 申景浩(国士舘大学二十一世紀アジア学部教授、国際関係学博士)

理事 土井幸平(前大阪市立大学教授、前大東文化大学教授、工学博士)

理事 長瀬達也(板橋区議会議員)

理事 河正雄(韓国光州市立美術館名誉館長)

理事 長谷川啓之(アジア近代化研究所代表、日本大学名誉教授、経済学博士)

理事 山崎俊次(大東文化大学常務理事、同大学教授)

理事 梁 仁(「梁の家」社長)

監事 佐々木憲文(日本総研コンサルティング理事)

監事 日向寺淳一(健康文化会医療労組書記長)

## お知らせ

### いたばし政策塾 「公開講座」ご案内

いたばし政策塾 2011 年の第 1 回公開講座が以下のような内容で開催されます。

記

- ◇日時 2011 年 1 月 28 日(金)  
18:30-20:00
- ◇場所 大東文化会館(東武練馬駅前)  
3 階 302 会議室
- ◇テーマ  
「韓国の政治文化と地方自治」～最近の東アジア情勢を背景に～
- ◇講師 永野慎一郎氏  
(大東文化大学名誉教授・東アジア政経アカデミー代表)
- ◇会費 1,000 円
- ◎連絡先 佐々木  
E-mail:  
mrbluejays@tbm.t-com.ne.jp

#### いたばし政策塾共同代表

松浦 勉・中村昭雄・鈴木好行

### 木浦訪問企画！

木浦訪問を企画しております。

朝鮮半島西南端の港・木浦市は古くから日本と交流があり、文化遺産も多数保存されています。映画「愛の黙示録」の主人公田内千鶴子は日韓交流の架け橋でもありました。田内千鶴子の痕跡を辿り、天然の木浦の魅力と豊富な海の幸を堪能する旅です。木浦市および全羅南道との交流もあります。

時期は未定ですが、4 月頃を考えております。希望される方は東アジア政経アカデミー事務所にお問合せください。

## 日韓合作映画「愛の黙示録」上映会

高知県生まれの田内千鶴子(韓国名尹鶴子)は、朝鮮総督府官吏の父親の仕事の関係で韓国木浦に移住し、木浦共生園の韓国人青年尹致浩と結婚した。朝鮮戦争中に行方不明の夫の帰りを待ちながら、身寄りのない戦争孤児たちを世話した。千鶴子の献身的な仕事が評価され、1963 年に韓国政府から文化勲章を受章した。「韓国の孤児の母」として親まれた千鶴子の早すぎた死の報に接した木浦市民は泣き、市民葬には 3 万人が見送った。千鶴子は戦後も韓国に残留して戦争孤児 3000 人の養育に一生を捧げた。1 人の人間として国境を超えて活動し、多くの人々に感動を与え、それが日韓両国の架け橋となり、日韓交流の契機を作った。映画上映会は、東京都板橋区と板橋区社会福祉協議会の共催で行う。(入場無料)。

主演:石田 えり(日本)  
吉 用祐(韓国)



- ◎日時 2011 年 2 月 10 日(木)  
【昼の部】 14:30(開場 14:00)  
【夜の部】 18:30(開場 17:30)
- ◎定員 280 名
- ◎場所 板橋区立文化会館  
小ホール  
(板橋区大山東町 51-1)

申込数が定員に達したため、受付終了致しました。

#### ■編集後記

新年早々、EAPEAニュースレター創刊号をお届けできますことをとても嬉しく思います。まだ手探り状態の作成ですが、今後は会員等の皆様のご協力を得て、さらなる内容の充実を図っていきたく思っております。今後もEAPEAに対してのご支援・ご指導をお願いすると同時に、忌憚ないご意見を心よりお待ち致しております。皆様にとりまして、そして世界にとって、2011 年が良い年になりますように！(大杉由香)

### 事務所案内

特定非営利活動法人 東アジア政経アカデミー  
〒173-0004

東京都板橋区板橋 2-64-5 グレイスビル 402 号

TEL: 03-5944-1779

FAX: 03-5944-1779

E-mail: eaPea@diary.ocn.ne.jp

URL: http://www1.ocn.ne.jp/~eaPea/

